

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32413

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K03012

研究課題名（和文）真偽刺激データベース作成の試み

研究課題名（英文）An Attempt to Create a Database of Stimuli for Detecting Truths and Lies

研究代表者

村井 潤一郎 (Murai, Junichiro)

学校法人文京学院 文京学院大学・人間学部・教授

研究者番号：50337622

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：欺瞞検知研究における典型的な実験パラダイムは、二段階からなる。第一段階では、研究協力者がある状況に置き、そこで嘘あるいは本当のことを言ってもらい、録画をする。第二段階では、第一段階で作成された刺激を別の研究参加者に呈示して、それぞれの刺激が嘘であるか本当であるか、判断してもらう。通常、第二段階が研究のメインであるが、実のところ、第一段階で行う刺激作成こそが重要であり、刺激の質が結果のすべてを決定すると言っても過言ではない。そこで本研究では第一段階に特化し、約250個の刺激を格納したデータベースを作成し、欺瞞研究を遂行しようとする研究者に刺激の提供をする準備が整った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

欺瞞は人間関係において重要な現象であるが、とりわけ日本では、欧米に比べて研究数が顕著に少ない。その一因として、欺瞞検知実験を遂行する際に必要とされることの多い真偽刺激の作成に手間がかかることが挙げられる。そこで本研究では、真偽刺激作成のプロセスを肩代わりすべく、真偽刺激データベースを作成した。今後、欺瞞研究を遂行しようとする研究者が本データベースの刺激を用いることで、より多くの日本発の欺瞞研究が発信されることが期待される。

研究成果の概要（英文）：A typical experimental paradigm in deception detection research consists of two stages. In the first stage, participants are placed in a situation where they are asked to tell either lies or the truth, and their responses are recorded. In the second stage, the stimuli created in the first stage are presented to another set of participants, who are asked to judge whether each stimulus is a lie or the truth. Usually, the second stage is considered the main part of the research. However, in reality, the creation of stimuli in the first stage is crucial, as the quality of the stimuli ultimately determines the results. Therefore, this study focuses on the first stage, creating a database containing approximately 250 stimuli, and is ready to provide these stimuli to researchers conducting deception research.

研究分野：社会心理学

キーワード：嘘 本当 欺瞞検知 真偽刺激 映像 データベース Moodle

### 1. 研究開始当初の背景

心理学における欺瞞研究、特に欺瞞検知研究では、まず実験刺激を作成した上で、その刺激を用いた実験を遂行し、人はどの程度正確に欺瞞検知に成功するか、欺瞞の手がかりは何か、などについて検討していくことが多い。この研究の流れで研究者が最も苦勞するのが刺激の作成である。もし、多くの刺激が事前に格納されたデータベースがあれば、本邦における欺瞞検知研究は活性化するのではないだろうか。本邦の欺瞞検知研究は欧米のそれと比して少ないのが現状である。これを改善するために、多様な真偽刺激を格納したデータベースを開発しようと考えた。

### 2. 研究の目的

欺瞞研究の遂行に資する、真偽刺激データベースを作成することが最終目的である。そのためには、データベースに格納する刺激を研究グループ自ら作成することが必要となるので、刺激作成も本研究目的の一つとなる。同様の試みは海外ではあり、全米科学財団真偽ビデオ集 (NSF Truth and Lie Video Collection) (Levine, 2007-2011)、マイアミ大学欺瞞検知データベース (Miami University deception detection database: MU3D) が知られている (Lloyd et al., 2018)。これらのデータベースに格納されている刺激では英語が用いられているので、こうした既存の刺激は、日本において日本人参加者に実験を遂行するには馴染まない。従って、日本語話者が登場する刺激を複数作成し、それらを格納した日本独自のデータベースを開発する。なお、刺激は、基本的には映像刺激とする。

### 3. 研究の方法

データベースに必要な機能などについて考え、試作版を作成したところ、刺激の検索、検索結果の表示、刺激の表示などにおいて、使い勝手の悪さが顕在化したため、その後、学習管理システムである Moodle (<https://moodle.org/>) を利用したデータベースに仕様を大幅変更した。これによって、刺激の再生、刺激の削除、アカウント管理など、全体的に利便性が向上することになった。以上のデータベース構築作業と並行して、研究グループのメンバーによって刺激の収録を行い、データベースに順次アップロードしていった。

### 4. 研究成果

以下、ひとまずの完成をみたデータベース (<https://deception.jp/moodle/>) のスクリーンショットをいくつか掲載し、データベースの構造、仕様について説明を加えていく。

図1は、ログイン前の画面である。右上のログインボタンを押下すると、ログイン画面に遷移する。本データベースは、アカウントを発行されたユーザー限定でアクセス可能になっている。現在は、研究グループのメンバーのみが登録されているが、将来的には、利用を希望する研究者を、審査の上、随時登録していく (図1の右下に「研究組織への問い合わせ」リンクを設けている)。



図1 真偽刺激データベース (ログイン前)

ログインが成功すると、図2のように、右上にユーザー名が表示される。これがログイン後の最初の画面であり、図2では研究代表者がログインした状態を例に挙げてある。



図2 真偽刺激データベース（ログイン後）

開始ボタンを押下すると、図3の画面に遷移する。実際には、図3の下部に各刺激がリストアップされており、各刺激について、「タイトル」「概要」「真偽」「動画ファイル」「投稿者」の各情報が表示され、加えて「編集」「詳細」「削除」「承認を取り消す」の4つのアイコンがある。この画面で、刺激の閲覧、ダウンロードなどができる。



図3 真偽刺激データベース（一覧表示）

図3の右下の「エントリを追加する」を押下すると、図4 - 1、図4 - 2のように、刺激をアップロードするための画面（「新しいエントリ」）に遷移する。刺激をアップロードする際の入力事項として、「タイトル」「概要」「詳細」「真偽」「真偽刺激動画」がある。ユーザーはこれらに必要な事項を入力し、「真偽刺激動画」欄に、アップロードしたいファイルをドラッグ＆ドロップする（図4 - 2）。



図 4 - 1 真偽刺激データベース (アップロード)



図 4 - 2 真偽刺激データベース (アップロード)

以上がデータベースの主な構造,仕様である。現在のところ,研究グループで作成された約 250 個の刺激が格納されている状態である。

データベースは,現時点では,研究グループで作成された刺激が格納されるにとどまっているものの,今後データベースの利用者を募り,アカウントを発行し,データベースの充実化を進めていく。すなわち,ユーザーは,データベースに格納された刺激をそれぞれの研究で利用するとともに,自らが作成した刺激をアップロードしていくことになる。多種多様な刺激が増えていくと同時に,データベースの利用過程で生じる改善点を収集し,仕様の改善を行っていきたい。本データベースの発展が,日本の心理学における欺瞞検知研究活性化に寄与することを期待する。

#### <引用文献>

Levine, T. R. (2007-2011). NSF funded cheating tape interviews. East Lansing, MI: Michigan State University.

Lloyd, E. P., Deska, J. C., Hugenberg, K., McConnell, A. R., Humphrey, B. T., & Kunstman, J. W. (2018). Miami University deception detection database. Behavior Research Methods, 1-11. doi:10.3758/s13428-018-1061-4

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Tabata Naoya, Vrij Aldert	4. 巻 13
2. 論文標題 The relationship between Japanese adults' age and self-reported verbal strategies when lying	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2022.1075239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Murai Jun' ichiro, Daiku Yasuhiro	4. 巻 72
2. 論文標題 Diary Study on Japanese University Students' Suspicions of Being Deceived in Everyday Life	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Communication Studies	6. 最初と最後の頁 807～818
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10510974.2021.1975147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Murai Jun' ichiro, Daiku Yasuhiro	4. 巻 2
2. 論文標題 Deception in everyday life of Japanese young adults: a reanalysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Discover Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s44202-021-00018-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tabata Naoya, Vrij Aldert	4. 巻 0
2. 論文標題 Differences between Japanese and British participants in self-reported verbal strategies to appear convincing	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry, Psychology and Law	6. 最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13218719.2021.2003269	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太幡直也	4. 巻 24
2. 論文標題 ボードゲームでの少数の大嘘つきの存在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合政策研究(愛知学院大学総合政策学会紀要)	6. 最初と最後の頁 19~26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murai Jun'ichiro, Nose Izuru, Takiguchi Yuuta	4. 巻 9
2. 論文標題 The More Attractive, the Less Deceptive? Effects of Female Facial Attractiveness on Perceived Deceptiveness	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychology	6. 最初と最後の頁 529~539
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/psych.2018.94032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 太幡直也, 佐藤拓, 菊地史倫, 讃井知, 上野大介, 村井潤一郎
2. 発表標題 『隠す』心理を科学する 詐欺被害のメカニズムとその防止
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太幡直也, Vrij, A.
2. 発表標題 嘘をつく際の言語的方略と年齢の関連 日本人を対象とした検討
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太幡 直也、佐藤 拓、大工 泰裕、村井 潤一郎
2. 発表標題 「隠す」心理を科学する 嘘を測定する
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村井潤一郎・大工泰裕
2. 発表標題 青年の日常生活における欺瞞性認知の生起要因
3. 学会等名 日本社会心理学会第61回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村井潤一郎・野瀬出・滝口雄太
2. 発表標題 女性の顔の魅力が欺瞞性認知に及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岡本 真一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 コミュニケーションの社会心理学	

1. 著者名 太幡 直也、佐藤 拓、菊地 史倫、上宮 愛、内田 伸子、横田 晋務、池田 和浩、田中 未央、小川 時洋、野瀬 出、今野 晃嗣、幸田 正典、村井 潤一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 「隠す」心理を科学する	

1. 著者名 太幡直也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 1
3. 書名 しぐさと欺瞞 鈴木公啓(編) 装いの心理学 整え飾るこころと行動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野瀬 出 (Nose Izuru)  (60337623)	日本獣医生命科学大学・獣医学部・准教授  (32669)	
研究分担者	太幡 直也 (Tabata Naoya)  (00553786)	愛知学院大学・総合政策学部・准教授  (33902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------